

令和元年度 第1回とよた森づくり委員会

会議録

日 時：令和元年7月11日（木）13：30～15：30

場 所：豊田市役所東庁舎4階42会議室

出席者：別紙参照

資 料：別紙参照

※以下、敬省略

1 開会

●森林課長 古澤

- ・令和元年度第1回とよた森づくり委員会を開催する。

※とよた森づくり委員会会長より挨拶

●とよた森づくり委員会 会長 岡本

- ・本日は、任期最後の森づくり委員会となる。
- ・よろしくお願ひしたい。

※豊田市より挨拶

●産業部長 前田

- ・第1回森づくり委員会にお越しいただきお礼をいう。先ほど会長からお話があったとおり、本日は現任期最後のとよた森づくり委員会となり、退任される委員の皆様には、豊田市100年の森づくり構想、新・豊田市100年の森づくり構想の策定等に変なご尽力をしていただいた。改めて御礼する。

次第にあるとおり、本日は平成30年度の間伐実績、令和元年度の予算概要等を議題とさせていただきます。

また、別件のため私は途中で退席するが、よろしくお願ひしたい。

※オブザーバー紹介

●森林課長 古澤

- ・続いて、オブザーバー参加していただいていた愛知県豊田加茂農林水産事務所林務課長が、今年4月の人事異動で交代されたことから、今回の委員会より成瀬課長にご参加いただくことになったので、一言ご挨拶をお願ひしたい。

●林務課長 成瀬

- ・4月から林務課長となった成瀬という。
- ・日頃より愛知県の林務行政にご協力とご理解をいただいております、この場を借りて感謝する。

3 議事

●森林課長 古澤

- ・それでは、次第に沿って議事に進みたい。ここからは、岡本会長に進行をお願いする。

●岡本会長

- ・それでは、議事（１）平成 30 年度間伐実績について事務局より説明をお願いしたい。

（１）平成 30 年度間伐実績について

※森林課深見より、資料 1 について説明

<質疑応答>

●山本委員

- ・間伐対象と目標 1200ha は、どういった基準が定められているか。

●森林課 深見

- ・航空写真解析をもとに、1600 本/ha 以上を過密人工林と判定し、間伐対象としている。
- ・20 年間で過密人工林の間伐を進める場合、1 年間でどれくらい間伐が必要か算出し、目標値を 1200ha に設定している。

●片桐委員

- ・間伐事業ででてきた材はどこに流れているか。

●森林課 深見

- ・今年度 8 月以降、基本的には西垣林業に流れている。

●板谷委員

- ・豊田市の間伐材はバイオマスに流れていないか。

●豊田森林組合青山氏（オブザーバー）

- ・バイオマスで利用される C 材は月間 350 トン前後で推移しており、西垣林業でチップ材にしたのち、半田のバイオマス発電所に納入されている。

●森林課 深見

- ・西垣林業ができたことから、A 材 B 材 C 材ごとに納入計画を設けている。
- ・現状 A 材 B 材は目標どおりの数量で推移しているが、C 材は納入計画より不足している状況であり、今後の課題。

●岡本会長

- ・それでは、議事（２）令和元年度予算概要について事務局より説明をお願いしたい。

（２）令和元年度予算概要について

※森林課川合より、資料 2 について説明

<質疑応答>

●山本委員

- ・森林保全推進プロジェクトの「新・森づくり構想実行管理委託」、「新たな架線系システム導入支援業務」について説明してもらいたい。

●森林課 鈴木（春）

- ・まず「新・森づくり構想実行管理委託」は、新・森づくり構想を実行していく豊田森林組合の体制整備を目的としている。
- ・毎月1回会議を開催し、作業員の雇用体制の整備といった課題について、専門家にコーディネートしてもらいながら議論し、豊田森林組合の体制整備を進めている。
- ・「新たな架線系システム導入支援業務」は、豊田森林組合の新たな作業システムの導入に向けた調査業務。
- ・現状の豊田森林組合の作業形態である車両系システムは、急傾斜地や道が入れづらい箇所においては不向きであることから、架線系システム等の導入を検討することで、地形に適した作業を選択できるような状態を目指している。

●板谷委員

- ・豊田市全域で、架線系システムが使用できる現場、車両系システムが使用できる現場がどれくらいあるのか、航空写真等を使ってマップに落とし込み、必要になってくるシステムの総生産量を考えることも大事ではないか。

●森林課 鈴木（春）

- ・豊田市の地形はヒダが細かく、現場によって特徴が大きく異なり、航空写真等でマップ化しただけでは、絵に描いた餅になる。
- ・まずはモデル的な複数の現場で試験などを行い、実際に豊田市で使えるかどうか検討していく方針。

●片桐委員

- ・国の森林環境譲与税について、活用するうえでの制約はあるか、また従来からある県のあいち森と緑づくり税に影響はあるか。

●森林課 深見

- ・国の環境譲与税の用途の方針として、基本的には森林整備や、森林整備に寄与する人材育成、木材利用等が挙げられているが、最終的には各市町村の判断としている。
- ・あいち森と緑づくり税については、創設10年を迎えたことから、従来の用途である過密人工林整備に加え、集落沿いや道路沿いなど防災を目的とした森林整備も推進していく方針が示された。
- ・国の環境譲与税による影響として、市内の小中学校の地域材製品導入事業へあいち森と緑づくり税をこれまで充当していたが、県から国の環境譲与税を充当するよう指示があった。
- ・よって、豊田市の環境譲与税6000万円のうち、800万円を小中学校の地域材製品導入事業へ、5,200万円を間伐事業へ振り分けている。

●鈴木（政）委員

- ・以前から言っているが、市内の林道、作業道がまともに通行できないところが多く困っている。
- ・作業道に関しては、受益者負担としているから市は関与しないのも分かるが、豊田森林組合などに委託して、作業道管理の専門部隊を1つ作ってもらおうと、豊田市の森づくりはより評価されると思うが。

●森林課 山田

- ・森林課では林道担当にてパトロール班と作業班で分かれて、林道作業道の点検を行っている。

●森林課 深見

- ・作業道の現状について承知はしており、確かに費用面について受益者負担としているが、原材料支給という制度はもっている。
- ・作業道が壊れ、土嚢袋、砂利、杭が必要になった場合に本制度を使って対応している路線もある。
- ・作業道の数は相当な量があり、委託するにしても豊田森林組合にそこまでの人的余力もない。
- ・課題だと認識しているものの、なかなか作業道全体に向けた解決策をすぐに出すことは難しい。

●鈴木（禎）委員

- ・作業道の整備に年間どれくらい経費がかかるか、試算のようなものはあるか。
- ・Iターンで旭地区にきている若者が一定数いて、フットワークも軽く、やる気もあるため、作業道整備の受け皿になれる可能性もある。

●山本委員

- ・作業道が災害の巣になってはいけない。
- ・市が全面的に調査を行い、危険度の高いところは山に戻すなど、施策として森林課が取り組んでいくことが求められているのではないか。

●岡本会長

- ・それでは、議事（3）森林の開発事案について事務局より説明をお願いしたい。

（3）森林の開発事案について

※森林課市川より、資料3について説明

<質疑応答>

●山本委員

- ・前回話がでた井ノ口町の20haの開発など、大規模なケースについて、今後も経過を報告してほしい。
- ・井ノ口町の開発について、災害発生時の対応などを明記した協定を見せてほしい。

●森林課 市川

- ・井ノ口町の20ha以上の開発については、市と事業者および地権者との間で協定を結んでいる。この協定に基づいて年1回、土地利用調整課に事業者から事業報告があり、各所管課において報告内容に問題がないか確認されるようになっている。
- ・井ノ口町の開発に関する協定の公開可否については、関係課と協議する。

4. その他

●山本委員

- ・とよた森林学校の今後について、次回以降のとよた森づくり委員会で議題に挙げてほしい。

●森林課 鈴木（春）

- ・とよた森林学校は当初の方針通り、15周年を1つの区切りと考えている。
- ・その後の体制については、まずは課内で協議を進めていく。

●永井委員

- ・とよた森林学校は、OB会、間伐ボランティアなど、森林に関するコミュニティができるきつ

かけとなっております、残してほしい。

5. 閉会

●森林課長 古澤

- ・最後に、今年度で退職される委員5名に一言ずつ挨拶をしていただく。

●岡本会長

- ・委員会発足当初、構想等を一から作っていく過程で闊達な議論ができ、面白かった。

●大江委員

- ・公共建築物への木材利用も大事だが、人が健康かつ長く住める丈夫な住宅が広まるように、豊田市も推進してほしい。

●山本委員

- ・森づくり構想、地域森づくり会議等、市の森林行政の根幹となる要素をとよた森づくり委員会で作ってきた。
- ・達成できる目標ではなく、森林が何を求めているかを基準に目標を立ててほしい。

●板谷委員

- ・とよた森づくり委員会では、現場の視察を通して、市職員と研究の応用方法など話し合うことができ、とても良い経験となった。

●澤田委員

- ・リニューアルされた自然観察の森が、近代的なデザインで残念だった。
- ・森林の理解を広めるためには、森林の良さが市民の目に届かないといけない。

●森林課長 古澤

- ・今回参加していただけて深くお礼申し上げます。次回の開催についてはまた改めて日程調整していく。
- ・本日はこれにて閉会とする。

以 上